CASBEE®横浜 ▌評価結果 ▌5-002

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 |使用評価ソフト：CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要

建物名称	ジェノヴィア西横浜	階数	地上10F
建設地	横浜市西区浜松町6番1、7番1、8番3	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	170 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月 竣工	評価の実施日	2023年3月28日
敷地面積	743 ㎡	作成者	株式会社建築計画一級建築士事務所 和田清一
建築面積	617 ㎡	確認日	2023年4月3日
延床面積	4,987 ㎡	確認者	株式会社建築計画一級建築士事務所 和田清一

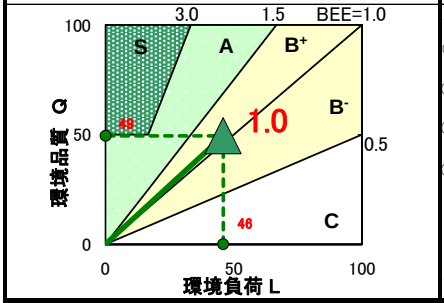
1-2 外観

外観パース等

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

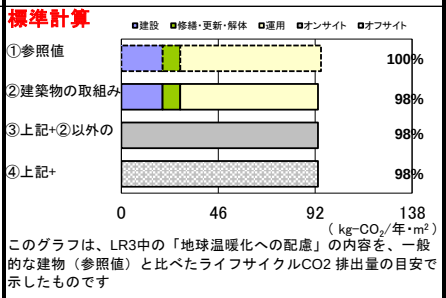
BEE =1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



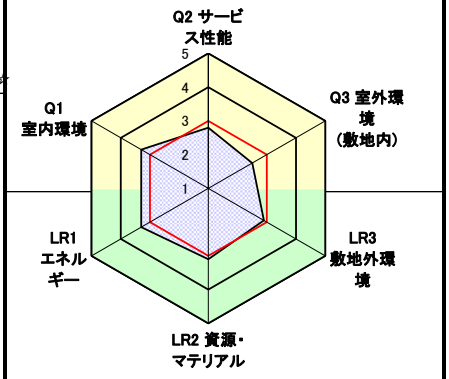
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



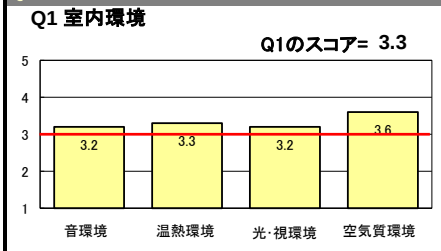
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

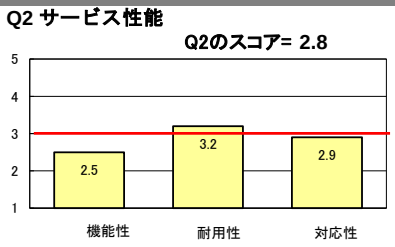
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

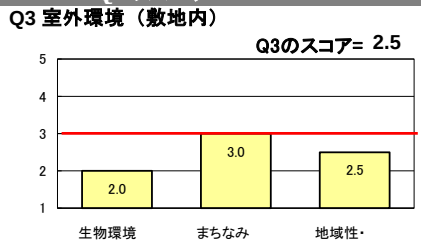


2-4 中項目の評価(バーチャート)

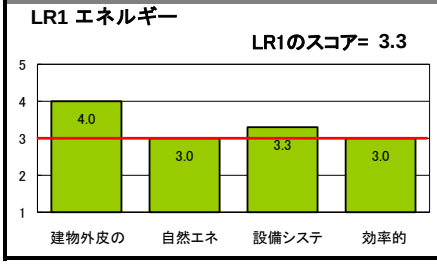
Q 環境品質　Q のスコア= 2.9

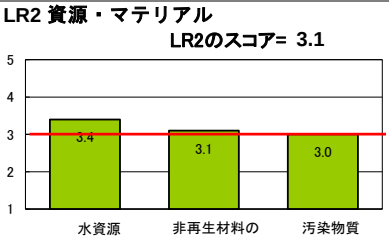


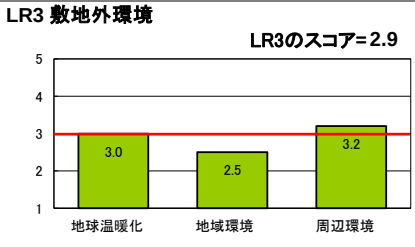




LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.1







3 設計上の配慮事項

総合

JR西横浜駅より徒歩１０分程の商業地域にある共同住宅。徒歩１分程に浜松町公園がある。

その他

Q1 室内環境

庇・カーテンによりグレア制御。床・壁・天井・天井裏のほぼ全面にF☆☆☆☆を採用。

Q2 サービス性能

内壁は防汚性の高い建材を採用。配管の主要用途上位３種の２種以上にB使用かつEは不使用。

Q3 室外環境（敷地内）

外来種に関し適切な対応をしている

LR1 エネルギー

0

LR2 資源・マテリアル

省水機器の採用。躯体＋軽鉄＋仕上材

LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。　　建物名称 **ジェノヴィア西横浜**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving　重点項目への取組(5点満点)　【省エネルギー性能】 2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 3 %削減

一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	―
受付日	2023年4月6日

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①等級4相当

③BEI=0.97

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community　重点項目への取組(5点満点)　【健康・安心】 3

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4　(相当)　※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無　なし

防災への配慮 (R) Resilience　重点項目への取組(5点満点)　【防　災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯床:タイル(65年)壁:ビニルクロス(20年)天井:ビニルクロス(30年)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape　重点項目への取組(5点満点)　【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
――――――	
エネルギーマネジメントシステム導入	
― ― ―	

CASBEE横浜 評価結果 5-002

CASBEE横浜2022年版v.1.1

ジェノヴィア西横浜

バージョン　CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質			-		-	2.9
Q1 室内環境			0.40			3.3
1 音環境		3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50	-
1.2 遮音		3.0	0.50	3.6	0.50	-
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	5.0	0.30	-
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		3.0	0.35	3.5	1.00	3.3
2.1 室温制御		3.0	0.50	4.0	0.50	-
1 室温	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.63	-	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.38	4.0	1.00	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.20	3.0	0.20	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.30	3.0	0.30	-
3 光・視環境		3.0	0.25	3.3	1.00	3.2
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.30	-
1 昼光率	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.60	3.0	0.50	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ ⑩光環境	-	-	3.0	0.30	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	1.00	4.0	1.00	-
3.3 照度	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.15	3.0	0.15	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.25	3.0	0.25	-
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	-
1 換気量	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	-	-	3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO_2の監視	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	2.8
1 機能性		2.5	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	3.0	1.00	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性	防　災 ⑮耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能	防　災 ⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防　災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防　災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防　災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防　災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防　災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防　災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防　災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防　災 ⑰信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防　災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防　災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防　災 ⑰信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性		3.0	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり		-	-	2.8	0.50	-
1 階高のゆとり		-	-	2.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ		-	-	4.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	-
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-

CASBEE横浜 評価結果 5-002

CASBEE横浜2022年版v.1.1
ジェノヴィア西横浜

バージョン　CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	重点項目 ＜非住宅＞ ＜集合住宅＞		建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑱生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑲まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑳地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.22	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-
2 発泡剤（断熱材等）			3.0	0.50	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-	-
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策			3.0	0.30	-	-	-

上記以外の重点項目				-	-	-	-
＜事務所用途＞				-	-	-	-
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-	-
＜住宅用途＞				-	-	-	-
健康と安心				-	-	-	-
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
4 犯罪に備える（共用部の防犯対策）	健康・安心	⑦防犯対策	1.0	-	-	-	-